

# 医学研究科未来プラン2021

## ～未来を切り拓く教育と研究を担う医学部・医学研究科～

### ■ 医学研究科未来プラン2021で目指すこと

国内外の社会情勢の変化に対応できる教員養成および施設整備を行うとともに、俯瞰的な視点と自主性を育む教育を実施します。研究科内における研究所・センターの活動拠点を活性化、研究科間・産学官連携を強化させると同時に研究科全体における世界トップレベルの研究を推進し、研究成果の発信・還元、地域医療、市民公開講座開講、SDGs活動を中心とした社会貢献を実践します。また、名古屋市と医療・教育面で密な連携・協力体制を確立・発展させていきます。

### ■ 社会情勢の変化・現状と課題

2021年4月より名古屋市立東部・西部医療センターが大学附属病院化され、全国の国公立大学病院の中で最大規模となる約1,800床の附属病院を持つ医学部となりました。一方、一年以上に及ぶ新型コロナウイルス感染症の蔓延や医学教育の世界基準化など医学部・医学研究科を取り巻く変化は新たな問題点を浮き彫りにしました。これらの問題の解決のためにも、IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有されるSociety 5.0の実現が必要不可欠です。

### ■ 代表的な取り組み

#### 広い視野をもち社会の将来像を見据えた教育ができる教員の養成

東部・西部医療センターの附属病院化による教員数の充実を踏まえ、さらに、臨床実務に即しSociety5.0に対応できる教員を養成していきます。

名市大未来プラン2021 1-(1)

#### 基礎 – 臨床の連携推進による研究力強化

東部・西部医療センターを加えて国内最大規模となった大学病院の研究をサポートする体制を整備し、基礎医学との連携を強化することで、トランスレーショナル・リバーstransレーショナルリサーチを促進します。

名市大未来プラン2021 2-(1)(2)(3)(8)

#### 医学研究科の活性化に資する戦略的な投資

名市大医学研究科の特性を活かす教育・研究・社会貢献・医療の先駆的プロジェクトに戦略的に投資します。

名市大未来プラン2021 8-(1)

## (1) 広い視野をもち社会の将来像を見据えた教育ができる教員の養成

東部・西部医療センターの附属病院化による教員数の充実を踏まえ、さらに、臨床実務に即しSociety5.0に対応できる教員を養成していきます。

名市大未来プラン2021 1-(1)(4)(7)

### 【実行項目】

- ①臨床実務家教員の養成（2021年度～）
- ②地域医療に根差した教員の養成（2021年度～）
- ③Society 5.0に対応できる人材育成（2022年度～）
- ④広い視野をもち質の高い教育の実現に向けたFDの実施（2022年度～）
- ⑤名古屋市の地域社会を見据えた教育の実現（2022年度～）
- ⑥国際共同研究を発展させる教員の育成（2022年度～）

## (2) 学修者本位の教育を実現するための環境構築

学修者本位の教育を実現するために、教育カリキュラム、設備の充実、ICTの活用、教学IRの実践を進めていきます。

名市大未来プラン2021 1-(2)(3)(5)(6)(7)

### 【実行項目】

- ①学生本位の学修に対応した支援の充実（2021年度～）
- ②医学教育分野別評価に対応した教育システムの構築（2021年度～）
- ③自主的・自立的な学習を支援する環境整備（2022年度～）
- ④学部生の勉強室、ICT環境、文献検索、図書館の充実（2022年度～）
- ⑤高大連携の強化（2021年度～）
- ⑥外国人留学生への教育環境の充実（2022年度～）

## (3) 学部・大学院・卒後にわたる継続的かつ多様な教育・研修システムの構築

在学時から卒後にかけての切れ目ない教育・研修プログラムを設計するとともに、多様な学修者に対応した自己研鑽システムを構築します。

名市大未来プラン2021 1-(2)(3)(5)

### 【実行項目】

- ①MD-PhDコースの発展（2021年度～）
- ②新ポートフォリオ導入による卒前・卒後研修の一体化（2021年度～）
- ③多様な学修者に対応できる柔軟な大学院プログラムの策定（2021年度～）
- ④積極的な社会参画を可能にする医療職再教育機会の確保（2021年度～）
- ⑤教学IRの推奨と活用（2021年度～）

## (1) 基礎－臨床の連携推進による研究力強化

東部・西部医療センターを加えて国公立大学では国内最大規模となった大学病院の研究をサポートする体制を整備し、基礎医学との連携を強化することで、トランスレーショナル・リバーストランスレーショナルリサーチを促進します。

名市大未来プラン2021 2-(1)(2)(3)(8)

### 【実行項目】

- ① バイオバンクにおける臨床検体の収集・活用のための整備（2021年度～）
- ② 共同研究教育センターを通じた外注事業・遠隔操作・自動化などによる研究支援システムの構築（2021年度～）
- ③ 基礎－臨床共同研究のマッチングや研究相談等の支援（2021年度～）
- ④ 研究科横断的な交流の促進（2021年度～）

## (2) 研究拠点の形成・発展と特色ある医学研究の推進

脳神経科学研究所、がん診療・包括ケアセンター、不育症研究センター、エコチル調査愛知ユニットセンター、実験動物研究教育センターなどの研究を促進するとともに、新たな研究分野の拠点を形成します。これらと研究科内および大学全体との連携を強化して、地域社会に貢献するとともに世界トップレベルの研究を推進します。

名市大未来プラン2021 2-(1)(2)(3)(4)(6)(7)(8)(9)(10)

### 【実行項目】

- ① 研究拠点における活動を国内外に発信し、名市大のブランド力向上と社会貢献を促進（2021年度～）
- ② 新たな研究拠点の形成（2022年度～）
- ③ 学内の研究者と各研究拠点間連携の促進による大学全体の研究レベルの向上への貢献（2022年度～）

## (3) 研究者の能力を向上させる環境の整備

優れた医学研究者を育成するとともに優秀な研究者を集めるための環境を整備し、研究者の意欲を向上させるための評価制度を確立します。

名市大未来プラン2021 2-(6)(7)(9)

### 【実行項目】

- ① 研究者のモチベーション・能力向上のためのフィードバックや表彰の実施（2022年度～）
- ② 研究者を育成するための環境の整備（2022年度～）
- ③ 教員業績評価などの見直し（2022年度～）
- ④ 優秀な研究者を集める方策の検討（2022年度～）

#### (4) 産学官連携による研究成果の社会還元

名古屋市および企業との連携によって、地域の課題解決に向けた医学研究を強化し、その成果を社会に還元します。

名市大未来プラン2021 2-(3)(4)(5)(10)

##### 【実行項目】

- ①企業への本学研究シーズの紹介による産学連携を促進（2022年度～）
- ②名古屋市と協力し地元企業との連携を促進（2022年度～）
- ③研究成果の特許出願と企業との連携による実用化の促進（2022年度～）

## (1) 医療福祉特化型SDGsプロジェクトの実施

学生と教職員が中心となり、地域や地元企業等と連携して、SDG3（すべての人に健康と福祉を）を実現するための複数のプロジェクトを実施します。

名市大未来プラン2021 3-(1)

### 【実行項目】

- ①積極的なSDGsセンターの活動への参加と、SDGs未来都市に選定された名古屋市との協働による、さまざまな機関との連携の強化（2022年度～）
- ②健康・医療に特化した複数のSDG3プロジェクトの開始（2022年度～）

## (2) 地域貢献活動の実践

地域のニーズに応える幅広いテーマに対する講師の派遣、医療・保健学びなおし講座、最新医学講座オープンカレッジ、市民公開講座、蝶ヶ岳ボランティア診療所、中学生職場体験、地域参加型学習の発展と高度化を行い、地域への還元を活発化します。

名市大未来プラン2021 3-(2)(3)

### 【実行項目】

- ①積極的な社会連携センター活動への参加を通じた、学外のニーズにマッチする医学部・附属病院が有する人的・物的資源の提供（2022年度～）
- ②社会貢献に関わる評価項目の充実（2022年度～）
- ③医学研究科の研究・活動内容を周知するためのイベント開催（2022年度～）

## (3) 名古屋市が抱える課題の解決への貢献

名古屋市との連携強化を通じて、先進的医療を供給する名古屋市のシンクタンク機能を担い、官学連携を推進します。

名市大未来プラン2021 3-(4)

### 【実行項目】

- ①名古屋市の関連部局との連携強化（2022年度～）
- ②医学研究科が関連する名古屋市が抱える課題の解決協力（2022年度～）
- ③名古屋市の各種審議会等委員への協力と、シンクタンク機能への貢献（2022年度～）

## (1) 医学研究科国際交流委員会の強化

日本人学生の留学支援や、今後増加する外国人留学生への学修・生活支援を強化するために、国際交流を通じた学修や研究力の強化を目指します。

名市大未来プラン2021 4-(2)

### 【実行項目】

- ①交流ネットワークの中心として、国際的な教育・研究活動のサポーターとして役割を担当（2022年度～）
- ②学部学生の研究留学や海外臨床体験の拡充（2022年度～）

## (2) 修士・博士課程のデュアル・ディグリーや学士課程の単位互換制度の拡充

協定校との交流を通じて、オンライン講義や実習を拡充し、デュアル・ディグリーや単位互換制度を整備し、地球規模で解決すべき課題に対して、世界で活躍できるグローバル人材を育成します。

名市大未来プラン2021 4-(1)(3)

### 【実行項目】

- ①協定校の拡充を図り、共通科目の開講を推進（2022年度～）
- ②医学研究科国際交流委員会を中心に、海外交流に必要な経費の外部資金獲得を推進（2022年度～）

## (3) 国際学会の開催および海外交流支援

若手を中心に、脳神経科学研究所、がん診療・包括ケアセンター、不育症研究センター、エコチル調査愛知ユニットセンターなど、医学研究科が誇る研究資産や、先進的な医学教育体制を広く世界に発信します。また若手研究者に対する国際学会発表支援を行います。

名市大未来プラン2021 4-(3)

### 【実行項目】

- ①医学研究科を中心とした国際学会の開催（2022年度～）
- ②国際学会発表にかかる包括的支援策の提供（2022年度～）

## (1) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築

高度先進医療を実践する高い専門性と倫理観を持ち、名古屋都市圏においてさまざまに活躍できる医療人を育成します。多様性を活かした働き方の推進と個人を尊重する文化の醸成によって、誇りと愛着を抱くことのできる組織の構築を目指します。安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させ、名古屋市民の健康と幸福に貢献します。

名市大未来プラン2021 5-(5)

### 【実行項目】

- ①臨床実務家教員の養成（2021年度～）（再）
- ②地域医療に根差した教員の養成（2021年度～）（再）
- ③Society 5.0に対応できる人材育成（2022年度～）（再）
- ④広い視野をもち質の高い教育の実現に向けたFDの実施（2022年度～）（再）
- ⑤名古屋市の地域社会を見据えた教育の実現（2022年度～）（再）
- ⑥国際共同研究を発展させる教員の育成（2022年度～）（再）

## (2) 臨床研究・治験ネットワークの構築

臨床研究・治験のための環境を整備し、附属病院群を活用した大規模国際臨床研究・医師主導型治験を推進します。また、外部機関との人材交流を促進します。

名市大未来プラン2021 5-(7)

### 【実行項目】

- ①バイオバンクにおける臨床検体の収集・活用のための整備（2021年度～）（再）
- ②基礎－臨床共同研究のマッチングや研究相談等の支援（2021年度～）（再）
- ③研究科横断的な交流の促進（2021年度～）（再）

## (3) 超高齢社会における医療体制の提供と地域医療への貢献

急性期から在宅医療に至るまで、医療・行政・介護・福祉・教育といった各機関の緊密な連携により、「循環型の地域包括ケアシステム」を推進します。名古屋市健康福祉局との連携を強化し、少子高齢化・国際化等の医療需要に応えつつ、治療と予防の両輪をまわし、人生100年時代を生涯現役で過ごせる社会づくりに貢献します。

名市大未来プラン2021 5-(2)

### 【実行項目】

- ①名古屋市の関連部局との連携強化（2022年度～）（再）
- ②医学研究科が関連する名古屋市が抱える課題の解決協力(2022年度～)（再）

## (1) 多様な財源の確保に向けた取り組み

教育・研究・医療の質のさらなる向上のため、寄附講座の積極的な獲得をはじめとする外部資金の獲得や、本研究科の資源を活用した新たな自己収入の確保など、多様な財源の確保を目指します。

名市大未来プラン2021 6-(2)

### 【実行項目】

- ①企業への本学研究シーズの紹介による産学連携を促進（2022年度～）（再）
- ②名古屋市と協力し地元企業との連携を促進（2022年度～）（再）
- ③研究成果の特許出願と企業との連携による実用化の促進（2022年度）（再）
- ④医学研究科国際交流委員会を中心に、海外交流に必要な経費の外部資金獲得を推進（2022年度～）（再）

# 組織マネジメント

## (1) 戦略的な人材確保、育成および配置

法人化メリットをさらに活かし、革新的な大学組織として成長し続けます。FD・SDの充実、活発な人材交流、評価制度の刷新など、人材マネジメントを強化することで、成長し続ける組織を実現します。

名市大未来プラン2021 7-(2)

### 【実行項目】

- ①広い視野をもち質の高い教育の実現に向けたFDの実施（2022年度～）（再）
- ②国際共同研究を発展させる教員の育成（2022年度～）（再）
- ③研究者のモチベーション・能力向上のためのフィードバックや表彰の実施（2022年度～）（再）
- ④研究者を育成するための環境の整備（2022年度～）（再）
- ⑤教員業績評価などの見直し（2022年度～）（再）
- ⑥優秀な研究者を集める方策の検討（2022年度～）（再）



## (1) 医学研究科の活性化に資する戦略的な投資

名市大医学研究科の特性を活かす教育・研究・社会貢献・医療の先駆的プロジェクトに戦略的に投資します。

名市大未来プラン2021 8-(1)

### 【実行項目】

- ①高度なレベルでの研究・教育の実践を可能とする戦略的な投資（2022年度～）
- ②獲得した大型競争的資金の研究・教育プロジェクトの発展に向けた投資の検討（2022年度～）

## (2) 社会環境に応じて発展するための柔軟な対応

社会環境の変化をいち早く察知し、他研究科との連携強化を戦略的に行いつつ、諸課題に柔軟に対応し、高等教育施策に貢献します。

名市大未来プラン2021 8-(2)

### 【実行項目】

- ①医薬学総合研究院をはじめとする研究科間連携の促進と、本学の特色ある研究の強化（2022年度～）
- ②データサイエンス学部（仮称）の設立への協力と、将来の社会環境に対応できる高等教育の実践の追究（2022年度～）

## (3) デジタル設備を活用した医学研究科附属施設の情報システムの共有化

医学研究科関連施設のそれぞれの特長を活かしつつ、AI・ICTを活用し、時代環境の変化に対応しながら、複数キャンパス間の情報システム共有に向けた計画を策定します。

名市大未来プラン2021 8-(3)

### 【実行項目】

- ①社会変化に対応する医学研究科附属施設のデジタル施設整備の充実（2022年度～）

## (4) ブランド力の向上による愛着の醸成

医学研究科の特色と強みを国内外にアピールし、より一層のブランド化により、学生、教職員、市民の愛着と誇りを醸成します。

名市大未来プラン2021 8-(4)(5)

### 【実行項目】

- ①研究・教育活動とその特色の発信によるブランド化の促進（2022年度～）
- ②研究科が一体となる企画を通じた学生・教職員の愛着と誇りの醸成（2022年度～）
- ③社会貢献活動を通じた市民からの愛着と誇りの醸成（2022年度～）